

各 位

会 社 名 朝日インテック株式会社
 代表者名 代表取締役社長 宮田 昌彦
 (東証第二部・名証第二部 コード番号：7747)
 問合せ先 経営戦略室室長 伊藤 瑞穂
 (TEL. 052-768-1211)

2013年6月期第2四半期累計期間業績予想と実績値の差異並びに 通期業績予想の修正に関するお知らせ

2012年8月10日に公表いたしました2013年6月期第2四半期累計期間業績予想と実績値に差異が生じましたので、お知らせいたします。

また、最近の業績の動向等を踏まえ、2013年6月期（2012年7月1日～2013年6月30日）の通期の業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 第2四半期累計期間の連結業績予想値と実績の差異（2012年7月1日～2012年12月31日）

| | 売 上 高 | 営業利益 | 経常利益 | 四半期純利益 | 1株当たり 四半期純利益 (円) |
|---------------------------|-------|-------|--------|--------|------------------------|
| 前 回 発 表 予 想 (A) | 9,032 | 1,469 | 1,450 | 1,038 | 67.59 |
| 今 回 実 績 (B) | 9,618 | 2,226 | 2,459 | 1,784 | 117.50 |
| 増 減 額 (B-A) | +585 | +757 | +1,008 | +745 | +49.91 |
| 増 減 率 (%) | +6.5 | +51.5 | +69.5 | +71.8 | +73.8 |
| (ご参考) 前期実績(2012年6月期中間) | 7,899 | 1,741 | 1,728 | 609 | 38.46 |

(金額の単位：百万円)

2. 通期の業績予想数値の修正（2012年7月1日～2013年6月30日）

| | 売 上 高 | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 (円) |
|---------------------------|--------|-------|-------|-------|-----------------------|
| 前 回 発 表 予 想 (A) | 18,691 | 3,554 | 3,526 | 2,491 | 162.09 |
| 今 回 修 正 予 想 (B) | 19,277 | 4,181 | 4,404 | 3,162 | 208.67 |
| 増 減 額 (B-A) | +585 | +627 | +878 | +670 | +46.58 |
| 増 減 率 (%) | +3.1 | +17.6 | +24.9 | +26.9 | +28.7 |
| (ご参考) 前期実績(2012年6月期通期) | 14,852 | 2,038 | 1,931 | 967 | 61.49 |

(金額の単位：百万円)

3. 連結業績予想値と実績の差異及び通期業績予想の修正理由

＜第2四半期累計期間の業績予想値と実績の差異内容について＞

売上高については、メディカル事業において、日本、欧州・中近東、米国、中国を含むアジア地域の全てにおいて想定以上に当社製品の需要が高まり好調に推移したため、業績予想値と実績に差異が生じました。特に、主力製品PTCAガイドワイヤーや貫通カテーテルが想定以上に好調に推移しております。PTCAガイドワイヤーは国内にてSIONシリーズや新製品GAIAが好調に推移したこと及び米国にてCTO(慢性完全閉塞)治療用の製品が好調に推移したこと、貫通カテーテルも米国直販化が好調に推移したことなどにより、予想値を上回りました。

売上総利益は、好調な売上高に比例したことに加え、タイ洪水影響に伴う減産を挽回するための増産の実施に伴い生産性が向上したことなどにより売上総利益率が上昇し、予想値を上回りました。

営業利益は、好調な売上高に比例したことや、販売費及び一般管理費の発生が第3四半期会計期間以降へ月ズレしたことによる減少が生じたことなどにより、予想値を上回りました。

経常利益は、円安の進行による為替差益の増加により、予想値を上回りました。

このような状況から、第2四半期連結累計期間につきましては、売上高・営業利益・経常利益・四半期純利益について業績予想値と実績値に差異が生じました。

＜通期の業績予想について＞

通期連結業績予想につきましても、上記のとおり第2四半期連結累計期間までの業績予想を上方修正することに伴い上方修正することにいたしました。

第3四半期連結会計期間以降の売上高は、デバイス事業における産業機器分野の取引動向が不透明であることから当初予想を下回る可能性がある一方、主力事業のメディカル事業においては第2四半期連結累計期間同様に大変好調に推移し当初予想を上回る可能性があるため、全体としては当初予想通り好調に推移する予定であります。

また、利益に関しましては、販売費及び一般管理費について第2四半期累計期間に発生予定であった取引(約130百万円)が月ズレし、第3四半期会計期間以降に発生する予定であるため、その内容を折り込んでおります。その他に関しては、たな卸資産の適正性に関する再評価を実行し収益体質改善のための在庫圧縮に努めることを積極的に推し進めることなどを予定していること、また為替や株式市場の外部環境の動向が不透明であることなどを複合的に勘案し、据え置きとしております。

なお、配当予想につきましては、現在のところ変更はありませんが、長期にわたり安定的な配当を継続することを基本方針として、今期最終連結業績、今後の業績見通しなどを総合的に判断して決定する所存であります。

※業績予想に関する留意事項

上記の予想値は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報および合理的な仮定に基づいた推測を前提としております。従いまして、実際の業績は様々な要因により本資料に記載されたものと大きく異なる結果となる可能性があることにご留意ください。

以上